インフォメーション・コーナー

会　告

○刊行物「農業用ダム保全管理工学」のご案内……100
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「排水」の発刊……100
○刊行物 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「農道」，設計「頭首工」，設計「農道」のご案内……101
○お願い‼ 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付……101
○ CPD 通信教育の参加者募集‼ 問題と解答はホームページに掲載……102
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！……102
○改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内……104
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
　2026 年 11 月から 2029 年 10 月までの編集体制と編集事務局……104
○第 63 回材料施工研究部会シンポジウムの開催（第 2 報）CPD　**参加申込締切　11 月 11 日**……105
○第 36 回農村道路研究部会研究集会の開催 CPD　**発表申込締切　11 月 4 日**……106
○防災学術連携体 WEB 研究会（ウェビナー）の開催　**11 月 10 日開催**……106
○令和 8 年度 ADCA セミナー「農業×国際協力を仕事にする
　～世界で活躍する開発コンサルタントたちと出会う～」の開催　**11 月 21 日開催**……107
○未来へつなごう！ふるさとの水土里（みどり）子ども絵画展 2026 の開催　**12 月 4 ～ 11 日開催**……107
○第 22 回バイオマス科学会議の開催　**12 月 10 ～ 11 日開催**……107
農業農村工学会論文集　内容紹介……108
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌　最新号掲載論文紹介……110
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 CPD……113
学会記事……114

第 94 巻第 12 号予定

展望：農業水利施設の戦略的維持管理の実現に向けた必要な戦術：野原弘彦

小特集：土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用

報文：水路の戦略的保全管理に資するデジタル点検技術：金森拓也ほか
報文：農業用パイプライン末端部の修理・事故と戦略的保全管理：兵頭正浩ほか
報文：農業水利施設の保全管理における AI 活用の取組：二神健次郎
報文：事故事例に基づく農業用パイプラインの漏水予兆検出の試み：池田弘毅ほか
報文：鋼矢板水路の保全管理に資する補修後再劣化実態の検出・評価：田上慧華ほか
報文：損傷を考慮した RC 堰柱の非破壊耐震評価の試み：鈴木哲也ほか

技術リポート

北海道支部：集中管理孔の認知度と地下灌漑用水量の実態：中村佳嗣ほか
東北支部：令和 6 年 7 月豪雨で被災した三光堰の応急対策と復旧工法：矢萩朋枝ほか
京都支部：ICT を活用した暗渠排水の一体化施工：小坂武都ほか
中国四国支部：パイプラインの通水試験における可視化ツールの開発：社家里枝子ほか
九州沖縄支部：島尻泥岩と琉球石灰岩地帯における排水トンネルの設計事例：長嶋秀昭

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について，下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう，お待ちしております。

Ⓒ のマークは，技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの，および認定申請中のものを表しています。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開　催　日	主　催	行　事　名	テ　ー　マ	開催場所	掲載号
2026年11月5日	北海道支部	第45回研修会 Ⓒ	30年後の北海道農業・農村の姿	札幌市	94巻9号
2026年11月6日	北海道支部	第75回研究発表会 Ⓒ	——	札幌市	94巻9号
2026年11月10日	関東支部	第77回支部大会 Ⓒ	——	甲府市	94巻6，8号
2026年11月19～20日	東北支部	令和8年度総会・第66回研究発表会・第56回研修会・第46回地方講習会 Ⓒ	——	山形市	94巻8号
2026年11月19～20日	京都支部	第83回研究発表会 Ⓒ	——	京都市	94巻4，6号
2026年11月20～21日	水文・水環境研究部会	第39回シンポジウム	——	神戸市	94巻10号
2026年11月24～25日	農村道路研究部会	第36回研究集会 Ⓒ	農道施設の点検診断の現状と課題について	松山市 Web	94巻11号
2026年11月27日	土壌物理研究部会	第65回研究集会	有機物施用に対する土壌物理学的アプローチ	文京区	94巻9，10号
2026年12月5日	応用水理研究部会	令和8年度講演会 Ⓒ	農業農村工学分野における応用水理学に関する研究	つくば市	94巻10号
2026年12月14日	材料施工研究部会	第63回シンポジウム Ⓒ	材料施工分野における先端研究・技術開発	Web	94巻10，11号

刊行物 「農業用ダム保全管理工学」のご案内

農業農村工学会では，学会内で長年活動した農業用ダム保全管理研究会を母体に農業用ダム保全管理工学編集委員会を組織して，「農業用ダム保全管理工学」を出版しました。改正土地改良法において，保全が明記されています。そのため，現場技術者が知っておくべき農業用ダムの技術を基礎的な事項から解説することで，技術研修のテキストや大学での教科書にも活用できることを意図しています。

購入希望の方は，下記要領にてお申し込みください。

1．発行書籍

書籍名：農業用ダム保全管理工学
編　集：農業用ダム保全管理工学編集委員会
発　行：(公社)農業農村工学会
価　格：3,960円（税込），学割：2,860円（税込）
送　料：1冊200円（最大600円）
規　格：A5判　306ページ
発行日：令和7年9月1日

2．申込み方法

Ⅰ．個人，法人の場合（賛助会員を除く）

① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailでお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要です。

Ⅱ．官公庁の公費購入および賛助会員の場合
書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をE-mailでお送りください。

3．申込み先

〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会事務局　図書係
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp

新刊　土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「排水」の発刊

令和7年4月に制定された，土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「排水」（農林水産省農村振興局編集）を令和7年12月に発刊しました。

購入希望の方は，下記要領にてお申し込みください。

1．発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「排水」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，技術書
編　集：農林水産省農村振興局
価　格：2,530 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）
規　格：A4 判　366 ページ
発行日：令和 7 年 12 月 17 日

2．申込み方法

Ⅰ．個人，法人の場合（賛助会員を除く）
① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封ください。
③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要です。
Ⅱ．官公庁の公費購入および賛助会員の場合
書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3．申込み先

〒105-0004　東京都港区新橋 5-34-4
(公社)農業農村工学会事務局　図書係
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp

刊行物 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」, 設計「頭首工」, 設計「農道」のご案内

令和 6 年 3 月に制定された，土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「農道」，設計「頭首工」，設計「農道」（農林水産省農村振興局編集）を令和 6 年 10 月に発刊しました。
購入希望の方は，下記要領にてお申し込みください。

1．発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　計画「農道」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，技術書
編　集：農林水産省農村振興局
価　格：1,760 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）
規　格：A4 判　173 ページ
発行日：令和 6 年 10 月 10 日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　設計「頭首工」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，技術書
編　集：農林水産省農村振興局
価　格：4,510 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）
規　格：A4 判　728 ページ
発行日：令和 6 年 10 月 7 日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説　設計「農道」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，技術書
編　集：農林水産省農村振興局
価　格：2,970 円（税込），送料：1 冊 200 円（最大 600 円）
規　格：A4 判　850 ページ
発行日：令和 6 年 10 月 7 日

2．申込み方法

Ⅰ．個人，法人の場合（賛助会員を除く）
① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書をご同封ください。
③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail でお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要です。
Ⅱ．官公庁の公費購入および賛助会員の場合
書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書を E-mail でお送りください。

3．申込み先

〒105-0004　東京都港区新橋 5-34-4
(公社)農業農村工学会事務局　図書係
TEL：03-3436-3418
E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い !! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では 2026 年度の学生年会費を免除しています。また，大学では，若手の研究者のみならず，教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿（たど）っており，人材の育成も困難になっています。そのため，産官学の連携協力の

強化を進めているところですが，その一環として，学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

2024年5月には，**持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。**

使用目的を明確化していますので，ほかに使用することはなく，税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため，会員各位からの多くのご支援をいただきたく，衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは，以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）
（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付
選定条件【 】

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
・気候変動，国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①，②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
・上記①，②以外，たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理
・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/）をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店
普通預金 No.1569058
口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031
加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は，所得税等の寄付金控除が受けられます。

CPD通信教育の参加者募集‼ 問題と解答はホームページに掲載

農業農村工学会では，学会員であり，かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として，平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり，かつCPD個人登録者は，どなたでも無料で参加することができ，通信教育分【ac】として年間最大24 cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に，是非CPD通信教育へご参加ください。

技術者継続教育機構のホームページにおいて，その時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認いただけます。

なお，解答内容については技術者倫理に則り，自らの責任で送信してください。

1． 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり，かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2． 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から，択一式で毎月10問を出題

3． 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し，送信（事前にWeb利用登録が必要）

4． 解答期限

問題掲載号の月から翌月末日まで
（例：学会誌11号掲載の問題は12月末日が解答期限）

5． 取得できるCPD単位

10問正解で2 cpdを，7〜9問正解で1.5 cpdを自動登録
（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6． 自動登録の時期

取得したCPD単位は，解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1． 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に，企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には，先に，下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判，

1,500字程度，様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後，企画・編集委員会において提出された要旨の内容を検討し，小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は，おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は，**刷上り4ページ**となっておりますので，ご執筆の際には**厳守**をお願いします。なお，小特集テーマが仮題となっているものは，予告なく変更することがあります。

学会誌第94巻・第95巻の小特集のテーマ

小　特　集　テ　ー　マ	要旨締切（A4判1,500字程度）
第94巻第12号　土地改良長期計画に基づく農業水利施設の戦略的保全管理とデジタル活用	終了
第95巻第　1号　農業農村工学研究のフロンティア	終了
2号　渇水リスクの高まりに立ち向かう農業用水の管理技術	終了
3号　集落の将来を考える	終了
4号　農業農村工学技術の開発と普及の促進に向けて産学官は何をすべきか	公募なし
5号　農業農村工学におけるAI実装の実践（仮）	11月10日
6号　土地改良区の課題と将来展望（仮）	12月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集しておりますので，学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は，E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第95巻第5号テーマ「農業農村工学におけるAI実装の実践」（仮）

近年，農業農村工学の分野においても，画像解析，数値予測，施設管理，気象・水文データ解析など，さまざまな場面でAIの活用が進んでいます。AIは大量のデータから有用な特徴を抽出できる一方で，学習データが限られる現場や未知の条件に適用する場合には，予測精度や結果の解釈に課題が残ることも少なくありません。

こうした課題に対するひとつの方向性として，対象とする現象の物理的理解や経験的知識をAIに取り入れる考え方が注目されています。農業農村工学が扱う水の流れ，土や構造物の変形，材料劣化，気象・水文の変動などには，これまで蓄積されてきた理論，モデル，計測技術，現場知が存在します。AIを単なるブラックボックスとして用いるのではなく，これらの知識と組み合わせることで，少ないデータでも信頼性の高い予測を行い，結果の意味を説明しやすくすることが期待されています。

一方で，AIの性能はモデルだけでなく，入力データの質や実装方法にも大きく左右されます。現場データには欠測，ノイズ，観測条件のばらつき，機器差などが含まれることが多く，異常値処理，ノイズ除去，校正，データ統合，データに正解情報や分類情報を付与するアノテーション，前処理の標準化といったデータ整備が結果の信頼性を支えています。また，モデル選定，データの前処理からモデルの学習，学習済みモデルによる予測・判定までをつなぐ一連の処理手順の構築，計算資源や運用・保守を見据えた設計，不確実性の把握など，AIを現場で継続的に活用するための工夫も重要です。

本小特集では，農業農村工学分野におけるAI技術の実践例，課題，今後の展望を広く紹介します。物理的理解を取り入れた手法に限らず，データ整備，解析支援，実装・運用，現場適用に関する具体的な工夫も含め，研究と実務の双方の視点から，実用的で信頼できるAI活用のあり方を考える機会となれば幸いです。

学会誌第95巻第6号テーマ「土地改良区の課題と将来展望」（仮）

土地改良区は，農業水利施設の維持管理や農業用水の安定供給を担うとともに，地域資源の保全や農村コミュニティの維持・発展に重要な役割を果たしてきました。農業水利施設はわが国の農業生産を支える基幹的な社会資本であり，その機能を将来にわたり発揮していくためには，施設を管理する土地改良区の存在が不可欠です。

一方で，農業者や農村人口の減少，高齢化の進行により，これまで地域の共同活動によって支えられてきた農業水利施設の維持管理体制は脆弱化しつつあります。また，施設の老朽化による突発事故の増加や維持管理費の増大，気候変動に伴う災害リスクの高まりなどへの対応も求められています。土地改良長期計画においても，農業水利施設の保全管理体制の構築と，その中核を担う土地改良区の運営基盤の強化が重要な課題として位置付けられています。

こうした課題に対応するため，土地改良区の合併等による再編整備，経営基盤の強化，女性や若者の理事登用の促進，准組

合員制度や施設管理准組合員制度の活用など，多様な取組みが進められています。また，改正土地改良法に基づき，土地改良区が主体となって市町村や集落，多面的機能支払活動組織などの関係者と将来の保全体制や役割分担を共有し，地域全体で農業水利施設等の保全に取り組むための「水土里ビジョン」の策定・推進も進められています。

本小特集では，このような土地改良区を取り巻く現状や課題を整理するとともに，組織運営の強化，人材の確保・育成，施設管理体制の再構築，地域の関係者との役割分担や連携，水土里ビジョンの活用などに関する研究成果や実践事例を幅広く募集します。これらを通じて，土地改良区が地域農業と農村社会を支える中核的組織として持続的に発展していくための方向性について考える機会となることを期待します。

2． 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には，農業農村工学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/journal/）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」，「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上，小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに，ご投稿ください。

ご投稿に当たっては，投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を上記の学会ホームページからダウンロードし，原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は，2019年8月27日に発行し好評を得ていますが，下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には，学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は，下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

(1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については，①正会員でかつ個人で購入した方，および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。

(2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は，「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上，氏名，会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は，紹介の先生の氏名も含む），下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

(3) 上記メールを受信および確認後，閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。

(4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは，改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお，Web 版とは，改訂5版から改訂6版の編集において，時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2026年11月から2029年10月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。

本ジャーナルは，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されていますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また，2025年のインパクトファクター（IF）は2.1であり，国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地，水，施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており，掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
② 排水（排水管理，排水施設）
③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
④ 水資源保全（水源開発，水文）
⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理，地すべり，気候変動，災害防止など）
⑧ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
⑩ 水田の多目的利用（田畑輪換，田畑転換，施設園芸）
⑪ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

また，世界12カ国から Editor（28名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の4種類です。

2026年11月から，新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Yu-Pin Lin

College of Bio-Resources and Agriculture, National Taiwan University, Taiwan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Jin Yong Choi

Seoul National University, Korea

Dr. Chihhao Fan

National Taiwan University, Taiwan

・Editors　12カ国から28名

・Editorial Advisors　29名

・Chief Managing Editor

Dr. Taeil Jang

Jeonbuk National University, Korea

・Managing Editors

Dr. Eunmi Hong

Kangwon National University, Korea

Dr. Kuo-Wei Liao

National Taiwan University, Taiwan

Dr. Shu-Yuan Pan

National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki Shimizu

Tottori University, Japan

Dr. Shutaro Shiraki

Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), Japan

編集事務局（2029年10月まで韓国担当）

Dr. Taeil Jang

Department of Rural Construction Engineering, Jeonbuk National University 567 Baekje-daero, Deokjin-gu, Jeonju-si, Jeonbuk 54896, Republic of Korea

TEL：+82-63-270-2518

E-mail：tjang@jbnu.ac.kr

投稿先：オンライン投稿（https://link.springer.com/journal/10333）になります。

投稿資格：**筆者が農業農村工学会員でPAWE誌の購読者**であること。

投稿要領等：https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelinesに詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：**正会員・名誉会員9,900円（税込）**

学生会員（院生含む）4,950円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は，まず農業農村工学会にご入会の上，お申し込みください。

なお，オンラインジャーナルへの完全移行に伴い，2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局（suido@jsidre.or.jp）まで会員番号を明記の上，お申し込みください。

第63回材料施工研究部会シンポジウムの開催（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

1．主　催　農業農村工学会材料施工研究部会

2．テーマ　材料施工分野における先端研究・技術開発

3．期　日　令和8年12月14日（月）

4．会　場　Web開催

5．プログラム

司会進行：山口大学大学院創成科学研究科　萩原大生

13：00～13：05　開会挨拶
新潟大学自然科学系（農学部）　鈴木哲也

13：05～13：20　材料施工研究部会研究奨励賞授与式
令和8年度部会賞選考経過報告

＜基調講演＞

13：20～14：10　定量化技術とWebアプリを活用した農業水利施設維持管理の高度化―デジタルツインとAI時代に向けた知識基盤整備―
農研機構農村工学研究部門
施設工学研究領域施設機能管理グループ
川邉翔平

＜一般講演＞

14：10～14：50

(1) 農業用管水路の長寿命化に向けた力学的挙動の評価と今後の課題
神戸大学大学院農学研究科　園田悠介

14：50～15：30

(2) 不可視構造物の保全対策技術に関する研究開発―ため池底樋の調査装置と農業用パイプラインのスラスト対策技術―
農研機構農村工学研究部門
施設工学研究領域地中構造物グループ
大山幸輝

15：30～16：10

(3) 農業用パイプラインの新たな保全管理体系の提案―AIとデータ活用による漏水事故抑制と高度化―
NTCコンサルタンツ(株)　山内祐一郎

16：10～16：20　閉会挨拶
新潟大学自然科学系（農学部）　鈴木哲也

6．参加費

シンポジウム：4,000円（参加費：1,500円
「材料と施工」第64号：2,500円）

7．申込み

以下の項目をご記入の上，E-mailにてお申し込みください。その際，件名には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記してください。

①参加者氏名　②所属機関名　③所属機関等住所　④TEL，E-mailアドレス　⑤テキスト代の振込日　⑥CPD番号（登録希望の方）

8．振込先

振込口座：山口銀行　湯田支店（048）（普通）5286670
振込口座名義：農業農村工学会材料施工研究部会
事務局長　萩原大生

※振込手数料は参加者にてご負担いただきますよう，よろしくお願いいたします。

9．申込締切　令和8年11月11日（水）
（材料施工研究部会幹事以外の参加希望者）
＊幹事で参加希望の方は参加費不要です。開催前日までに参加の一報をください。

10．申込み・問合せ先

〒753-8515　山口県山口市吉田1677-1
山口大学大学院創成科学研究科農学系学域
申込受付担当：萩原大生
TEL：083-933-5292
E-mail：t-hagiwara@yamaguchi-u.ac.jp

第36回農村道路研究部会研究集会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中

1．主　催　農業農村工学会農村道路研究部会

2．特定課題

課題名：農道施設の点検診断の現状と課題について

内容：農道施設（農道橋など）の定期点検を巡る諸情勢について，SIP北陸の活動紹介を中心に，維持管理の観点から議論する。市町村農道の維持管理に関わる課題の共有，農道の維持管理に関わる課題の共有，舗装の技術紹介を行う。

（1）　招待論文：特定課題
（2）　研究論文：特定課題および農村道路に関わる研究課題
（3）　技術報文：農村道路に関わる調査・計画・施工の自由課題

3．開催日

研究集会　令和8年11月24日（火）13：00～17：00
現地研修会　令和8年11月25日（水）10：00～12：00
（時刻が若干変更する可能性あり）

4．発表申込み

（1）　発表申込期限　令和8年11月4日（水）
（2）　原稿提出期限　令和8年11月11日（水）

申込方法などの詳細は農業農村工学会ホームページ　→　最新情報　→　第36回農村道路研究部会・研究集会の開催についてにてご確認ください。

5．会　場

現地対面およびWebでのハイブリッド開催
・現地開催
〒790-8577　愛媛県松山市文京町3
愛媛大学E.U. Regional Commons（ひめテラス）3階
トヨタカローラ愛媛みらいLAB
・情報交換会
開催場所：研究集会終了後，近くの会場にて情報交換会を開催する予定です。

6．参加費

研究集会（現地研修会含む）：4,000円
情報交換会：5,000～6,000円（予定）
※当日現金にてお支払いください。
※Web参加の方は無料となります。

7．参加申込締切　令和8年11月11日（水）

以下のURLまたは二次元コードより，お申し込みください。
https://forms.gle/WQNzKSxt9fJftwu36

8．問合せ先

北海道科学大学工学部都市環境学科　准教授 中村博康
E-mail：nakamura-hi@hus.ac.jp

防災学術連携体WEB研究会（ウェビナー）の開催

農業農村工学会では，防災学術連携体の活動の一環として，下記のとおりWEB研究会（ウェビナー）を開催いたします。本研究会では，近年の気候変動に伴う農業災害の現状や，品種・栽培技術・農業インフラの連携による適応策について議論を深めます。会員の皆様をはじめ，関心のある方の多数のご参加をお待ちしております。

1．趣　旨

地球温暖化に伴い，農作物の品質・収量低下，豪雨による農地の浸水や土壌流出，渇水による農業用水の不足などが増大している。こうした気候変動に適応し農業生産を維持・向上させるためには，「品種」，「栽培技術」，「農業インフラ」を相互に連携させ，一体的に対応することが重要である。研究会では，気

候変動下における農業災害の現状を共有し，品種･栽培技術･農業インフラの三位一体による適応策のあり方について議論する。

2．日　時

2026年11月10日（火）16：00～18：00

テーマ：温暖化時代の食料安全保障戦略（仮）

司会：白谷栄作（農業農村工学会専務理事）

開会挨拶：米田雅子（防災学術連携体代表幹事）

3．話題提供

(1)　温暖化が農業生産に与える影響と研究開発の方向性
農研機構　理事　原田久富美

(2)　高温耐性・ストレス耐性品種の開発最前線
農林水産技術会議事務局 研究統括官　前田英郎

(3)　温暖化影響を緩和する栽培技術とチャンスに変える新たな農業生産技術
農研機構中日本農業研究センター 技術適用研究チーム長
中野　洋

(4)　極端気象に対応する水管理・農業インフラ技術
農研機構農村工学研究部門 所長　桐　博英

質疑応答・総合討論

4．申込み

参加をご希望の方は，以下の申込み先からお申し込みください。お申し込み後に，Zoomのアクセス先の連絡が届きます。当日申込みも可能です。

https://ws.formzu.net/fgen/S42847141/

令和8年度ADCAセミナー「農業×国際協力を仕事にする ～世界で活躍する開発コンサルタントたちと出会う～」の開催

1．主　催　(一社)海外農業開発コンサルタンツ協会
後　援　農業農村工学会ほか

2．日　時　2026年11月21日（土）13：30～17：30

3．場　所　JICA地球ひろば6階「セミナールーム600」
〒162-8433　東京都新宿区市谷本村町10-5

4．参加対象　農業農村開発，または国際協力等に関心のある学生および社会人

5．その他

詳しくは，令和8年度ADCAセミナーのホームページ（https://www.adca.or.jp/contents/file/seminar/R8Seminar_flyer_2nd.pdf）をご覧ください。

未来へつなごう！ふるさとの水土里（みどり）子ども絵画展2026の開催

1．主　催　全国土地改良事業団体連合会
都道府県土地改良事業団体連合会
後　援　農業農村工学会ほか

2．受賞作品展示

期間：2026年12月4日（金）～11日（金）
※12月7日は除く
会場：東京都美術館

3．その他

詳しくは，未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2026のホームページ（https://www.inakajin.or.jp/works/pr/kids-art）をご覧ください。

第22回バイオマス科学会議の開催

1．主　催　日本エネルギー学会バイオマス部会
協　賛　農業農村工学会ほか

2．日　程　2026年12月10日（木）～11日（金）

3．会　場

東京農工大学小金井キャンパス　140周年記念会館エリプス
〒184-8588　東京都小金井市中町2-24-16

4．その他

詳しくは，第22回バイオマス科学会議のホームページ（https://www.jie.or.jp/pages/1123/）をご覧ください。